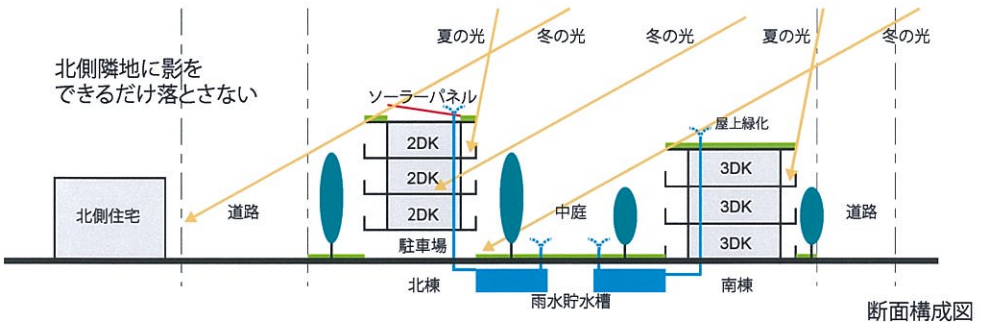
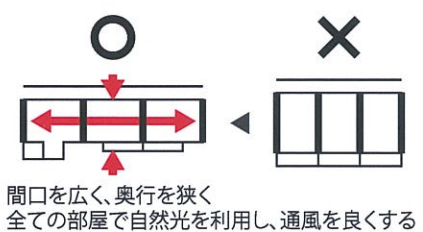


様式 1 1
 「公営住宅における環境配慮」及び
 「まちなみ景観デザイン」についての提案

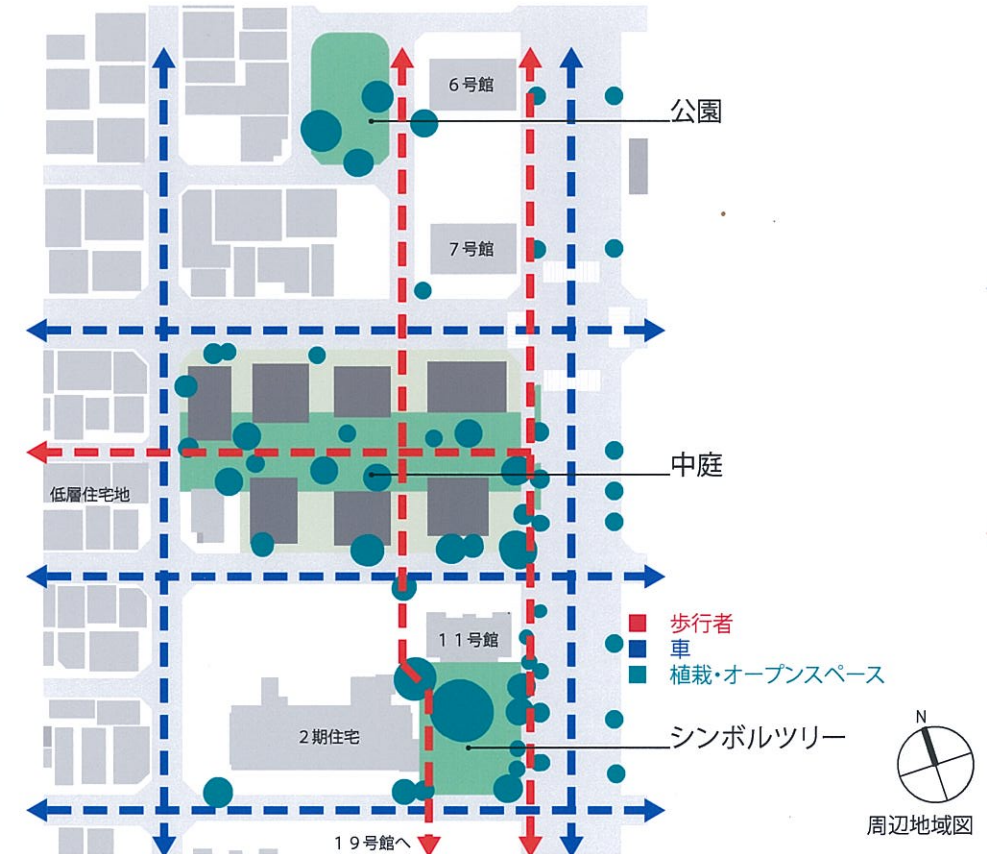
- 「公営住宅における環境配慮」
 パッシブな自然エネルギーの活用
 設置費用や維持管理コストの高い機械設備に頼ることなく、直接的で素直な自然エネルギーの活用を重視する。
- 冬の太陽熱のダイレクトゲイン
 - 夏の日射の遮蔽
 - 通風による排熱
 - 自然光による室内照度の確保
 - 高断熱高气密による室内温度の安定
 - 敷地全体の保水性能向上によるヒートアイランド防止
 敷地内緑化、屋上緑化、透水性アスファルト、雨水を共用
 散水等植栽の水遣りに再利用



「まちなみの景観デザイン」
 分割されたボリュームと空間のリズミカルな連続性でまちなみをつくる
 ヒューマンスケールの建築ボリュームによって、周辺への圧迫感を緩和し、低層住宅地との調和を生み出す。

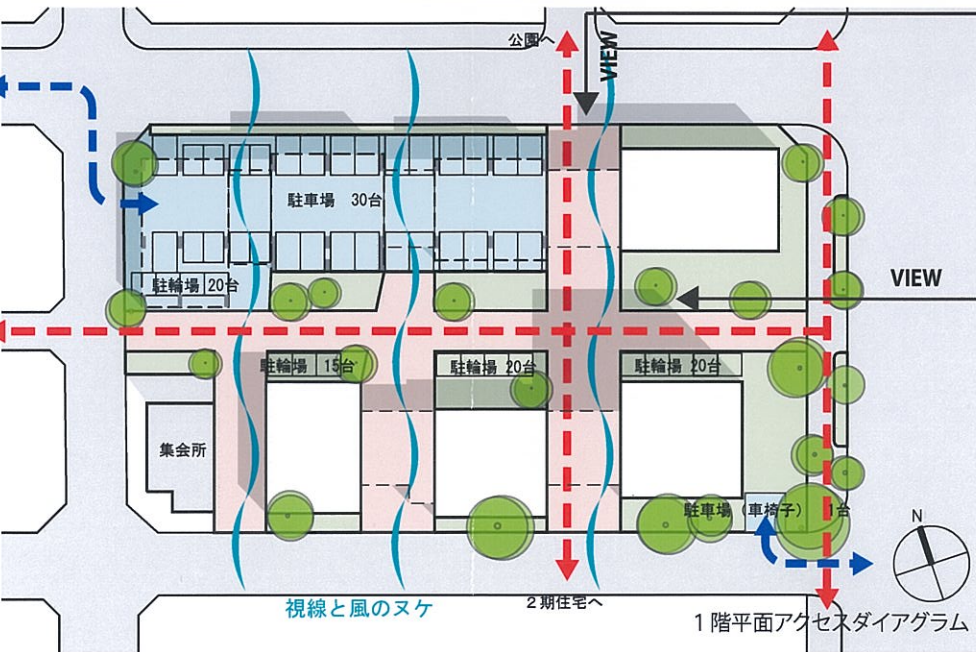
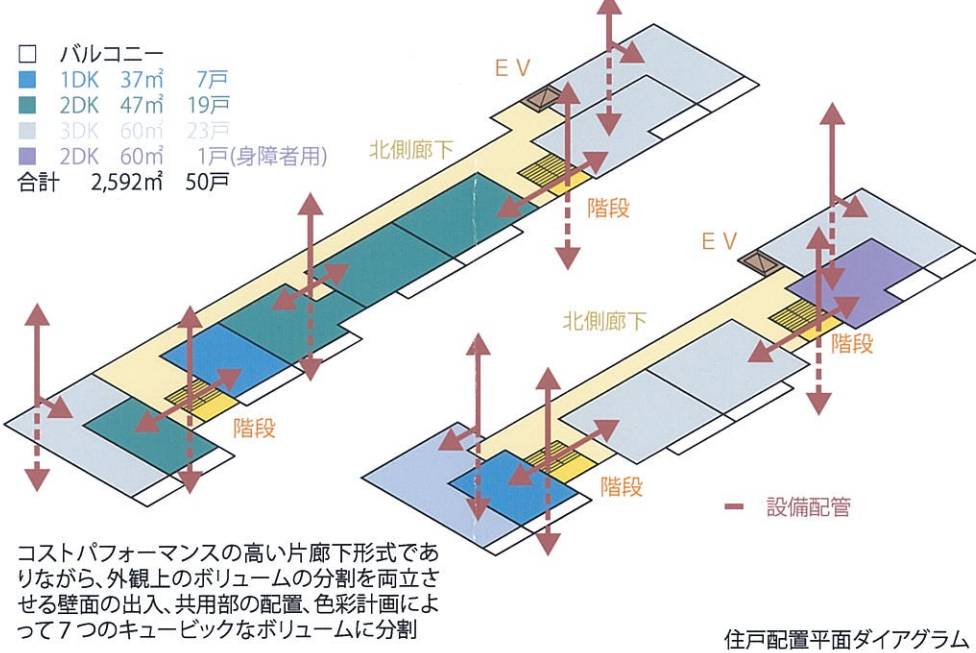
地域全体の歩行者空間を再編する
 車道に囲まれた大きな街区の中心を貫くように歩行者空間が編み込まれている図式が周辺の現況から読み取れる。それを敷地内の歩行者空間の設計に取り込み、地域全体の歩行者空間ネットワークを再編する。

緑のネットワーク
 北側の公園と既存シンボルツリーのある南側第2期住宅のオープンスペースをつなぐ、新しいオープンスペースとして、本計画の中庭を緑化することにより、地域全体の緑のネットワークの中心とする。



片廊下プランによるシンプルで効率的なオールバリアフリープラン
 全ての住戸に2箇所のE Vからバリアフリーアクセス

- バルコニー
- 1DK 37㎡ 7戸
- 2DK 47㎡ 19戸
- 3DK 60㎡ 23戸
- 2DK 60㎡ 1戸(身障者用)
- 合計 2,592㎡ 50戸



「ユニバーサルデザイン」
 低層で接地性の高い高齢者や子供達に優しい福祉住宅
 今後急速に進行する高齢化社会に対する福祉政策としての公営住宅のあり方を意識して、より低層で接地性の高い、高齢者や子供達にも安心安全な住宅とする。
 個々の住戸のプライバシーを確保しつつも、街や共用庭での音や人の気配や、木々の自然を近い距離で感じる福祉住居とする。

「ライフサイクルコストの削減」
 躯体保護と設備更新の柔軟性による建物の長寿命化
 ●構造躯体の中性化遅延と温度変化低減による長寿命化 → 外断熱工法の提案
 ●設備更新への柔軟な対応
 鉛直配管は共用部に露出し、水平配管はスラブ上の上げ床内配管とすることで、住戸毎の設備配管更新やメンテナンスを可能にする
 近い将来予測されるエネルギー技術の革新に対応できるようにオープンダクトとして、設備スペースを十分確保する。



メリハリの利いた高層棟と低層棟の組み合わせ
 高層棟があることによって、低層棟の密度が低くなり、接地性、採光性、通風性が高くなる
 低層棟があることによって、スレンダーなシンボリックな高層棟が可能になる

